

★本年もどうぞよろしく

今年も新しい年を迎えました。お互い体のどこかに何かおかしなところの一つや二つあってもおかしくない年頃の私たちではありますが、こうしてまがりなりにも元気でお正月を迎えられたことを有難いと思います。好きな8ミリは年々心細くなり、ビデオ時代は確実に前進していますが、8ミリのあの手作りの感覚を捨てる気にはなりません。幸いOMCの例会では毎回6~7本、時には10本近い8ミリ作品が寄せられ、8ミリだけでは出品が少なく例会にならないと、ビデオと両立てのクラブがほとんどの実情の中であって、フィルム作品のみで楽しくやっているわがクラブに誇りを感じます。いずれ機材の面で次第に難しくなるときが来るでしょうが、お互いゆずり合い、助け合っても、8ミリの灯を消さず、いつまでも楽しみの種に残していきたいと考えます。頭の老化を防ぎ、楽しく元気で人生を過ごさせてくれる8ミリに乾杯!

本年もどうぞよろしくお願ひ申しあげます

★12月例会レポート

12月例会は年末で第3土曜日に繰り上げをしたため、合原広報担当が漏版出来ず、小倉会長がかわって記録を担当した。

上映：「京大阪挽歌」桐田豊繁氏、Su M 5分 S54年の作品。御堂筋の銀杏並木や、京都のまねき猫や百貨店の年末風景。タイトルの挽歌に内容がなじまないの、題名のつけ方に一考を要するのと、ピントの悪いところの整理をされたらどうか。「百石踊」金子博泰氏 Su M 5分。三田の雨乞いの踊りは珍しい題材

だが、踊りのテンポが遅いうえでロングショットが多いため盛り上がりのよわい作品となった。もっとアップでとっておればと惜まれる。「けまり」村田英夫氏、Si M 6分。談山神社での「けまり」を撮った作品だが、導入の紅葉から談山神社へのアップショットが素晴らしい。単調な「けまり」を主題にしないで、美しい風景と神社の建物を主体にしてその風景の一部の点景として蹴鞠を扱った方がよかったのでは。ナレーションも主催者の説明のコピーではなく、自分がどう感じたのか、自分のナレーションにしてほしい。

「平成太平記」細見正氏、Si M 10分。NHKの大河ドラマを連想する大きな題名だが、作者の新しい意欲を感じさせる作品。しかしやや消化不良の感も。明日香の遺跡だけではゲイがないので大阪の町の風景を挟み込んだと作者の弁。当初「都心の休日」が主題だったとか、むしろこれに徹しられては。「時のかけら」江村一郎氏、Si M 4分。雪の中を鷲進するSLから一転してホームに入ってくる新幹線、JRのマークのついた電車のショット、そして1本の線路で終わる。なにが“かけら”かと司会者が聞いてまわった話題作。後半のカットがもっと欲しい作品。「芭蕉のふるさと」岡本至弘氏、Su M 15分10年前の処女作とのことだが、なかなか良くできた作品。伊賀上野が主舞台。「北山慕情」今井羨美氏、Su T 3分40秒。S58年OMC秋の撮影会作品。故川畑前会長演出の歌謡映画。

☆1月例会は第4土曜26日、18時20分。於なにわ会館。新作旧作ご持参。乞多数のご出席

★“題材”雑感

—合原一夫氏の東京だより(18)—

8ミリにせよ、ビデオにせよ、何処へ撮りに行こうか、何処かえ、題材はないかと、悩んでしまう。特に同じ関西なら関西に長く住んでいると、たいいていの場所は誰かが“撮り荒らし”ていて写欲が湧かないのである。

東京の人が大阪や京都へ来られたら、写す対象がいろいろ目について夢中でカメラのシャッターを押すに違いない。

幸い私は関西と東京との二重生活中であり東京での新しい題材について、撮ってみたい対象がいろいろとある。だが、休日の半分は大阪へ帰ってしまうので、東京での休日が少なく、仕事が多忙のせいもあってなかなか作品が出来ない。じれったいものである。

題材あれこれ思いつくまま。

- ①「何だ、あれは」；浅草近くのビルの屋上に、妙ちくりんの立体看板がある。悪魔のうんちか、きんと雲か、宇宙人の乗物か…、その他、常識やふりの変な建物やら彫刻やら、ユーモアあるせりふで綴ったらオモシロイ…
- ②「超高層のある“佃のまち”」；佃と言えは情緒あふれる東京の下町、以前、故近藤幹太さんの作品をみた記憶があるが、今は超高層マンションに見おろされる下町となった。新旧対比で何か作品が出来ないか。
- ③「都心のオアシス」；山手線の内側にも、江戸時代から残る自然林やら広大な庭園やらがあちこちにあり、小鳥やカラスの大群が生息している。人間の群衆と鳥の大群が共存。
- ④「トラさんの故郷」；葛飾区柴又は帝釈天

の門前町でありなかなかの情緒がある。近くに矢切りの渡しもあり、ひとひねりシナリオを考えれば一寸した小品が出来そう。

⑤「若者の街」；渋谷、原宿、六本木等、若者の風俗を映像的に描写するのもテだが、私の苦手の分野ではある。以下、次の機会に。

★例会より出席率の高い「新年会」

今年の新年会は1月19日土曜、なにわ会館にて行われたが、例会にはほとんど顔だしをされない“懐かし”の会員さんも多数参加されて「よおー、元気か」「例会にも出席してや」など和気あいあい、話がつきず、二次会へともつれこんだ。例会もこんなに集まるといいんだがなあー。

★1月例会レポート

ほどよい暖房の会場で、新年会には来た人も例会にはやっぱり来ないなあ、等の笑い声と共に有村氏の司会で開会。上映；「遊園地」滝野氏、Su M 10分。エキスポランドで家族と過ごす休日。「嵯峨野撮り歩き」桐田氏、Su M 5分。嵯峨野のスケッチ。「どやどや」村田氏、Si M 4分。迫力のあるシーンが印象的。「淀の流れは葦の原」細見氏、よし焼きが強烈。いい作品だけに色々と注文も。

「エキゾチック神戸」金子氏、Si M 6分。お色気たっぷりのフラメンコの踊りが狂巻。これより往年の名作。「薬師寺の印象」有村氏、Si T 7分。「飛鳥残照」横山氏、Su T 17分「終極」関氏、Si T 5分。いずれも今見ても立派な作品ばかり。以前は頑張ってた…

☆2月例会は第4土曜23日、18時20分。於なにわ会館。多数のご出席お待ちしております。

★まだ作っていたオープンデッキ

—合原一夫氏の東京だより (19) —

今年の冬は暖かいのか寒いのか判らないまま早や東大寺のお水取りの季節となった。春来たるである。

さて先日、小倉会長のお宅へ訪問した際、比較的新しいオープンデッキが据えられており、聞けば2年ほど前に日本橋で買ったのだという。へえー、まだ作っているのかと驚いて東京へ帰ってヒカリカメラに相談したらテイアックからまだ出されているという。しかも4チャンネルが割安で入手出来るらしい。

ビデオ時代に4チャンネルデッキでもあるまいと思ったが、ビデオの録音編集にも十分使えると判り手に入れた。

8ミリ関連機材は皆製造中止だが、オープンデッキの製造を知ったことは新鮮な驚きであった。テイアックさんよ、頑張って!

★2月レポート

例会日の2月23日土曜の夜は今冬一番の冷え込みの厳しい日で寒さが身にしみた。そのせいか会員諸氏の出あしが悪かったが、始めてみるといつの間にか賑やかに増えていて、やはり例会を楽しみにしてくれているなど、感謝感激である。作品の方もリバイバルが多いとは言え8本も集まり時間一杯のフル映写となった。他のクラブはビデオが大半というのに、OMCだけは8ミリフィルム作品だけで会が成立するとは、やはり伝統の重みか。あり難いことである。いつまでも盛会でありたいものである。

上映: 「京都花花花」 桐田豊繁氏、Su M 5分

昨年例会上映後、手直しされ再度持参。ロープウェイなど観光映画風になったのが題名にそぐわないので“京の春”程度にしてはとの助言あり。「火まつり」村田英夫氏、Si M 5分。阿含宗の火まつりを撮られたが迫力があつた。だが二重写しや高速度撮影が活きていないのではと惜まれる。「雲南の女たち」上総修一郎氏、Su T 24分。昨年関西シネクラブでの発表作品。映画村の“映像サロン”にも紹介されたが珍しい情景が展開して最後まで魅きつけられた。「光景」江村一郎氏、Si M 6分。今は建設中止となった鉄道の高架橋が一つ、ポツンと田んぼの真ん中に建っている。その奇妙な光景にポイントを置いて構成直したらいい映画になると思うのだが。

「流水を追って」辻村定利氏、Su T 6分。1986年2月撮影、印象的で素晴らしい画面が続く。氷点下の撮影苦勞話にしばし花が咲いた。「湖東の春」有村博氏、Su T 11分40秒。1976年作、キャノンコン入選、オーストラリア国際コン入選という輝かしい戦果を納めた作品だけあって、しっとりとした情感が画面からにじみ出てくる。今はもうこんな風景は撮れないという。「流動」関剛氏、Si T 8分。1967年作、懐かしのモノクロで二重写しをふんだんに使ったシングル作品。1駒2駒がフラッシュ的に挿入された心象映画風作品。「もう飛ばないで」小倉宝蔵氏、Su T 17分。1973年、小倉会長の若かりし? 頃の意欲作。浜田氏の声の若いのに驚く。

☆3月例会は第4土曜23日、18時20分。於な
にわ会館。新作旧作持参歓迎、乞多数ご出席

OMC News

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

〒531 大阪市北区長柄東2-1.21-204

TEL (06)357-7281

1991.4 No.305

★残雪の札幌そぞろ歩き

-合原一夫氏の東京だより(20)-

この4月5、6の両日、社用で札幌へ行ってきた。3年ぶりであった。前回は家内と北海道6泊7日の周遊で札幌はほとんど素通りに近かったし8月初旬の夏であった。今年になって札幌地方は積雪6mという近年にない大雪だったとかで、九州では桜も散り始めたというのに、ここでは残雪があちこちに見られた。大通り公園では雪の中を鳩が餌をあさるのが印象的であった。雪まつりの頃は賑やかだった公園も今は工事の仮囲いかめだち、人もまばらだった。夏の観光シーズンに具えて準備中なのであろう。自慢のアカシア並木等もまだ芽が出ていない。観光には中途半端な季節なのかも知れない。それでも仕事が終って半日、市内をゆっくり散策すると何か解放感のようなものが味わえた。繁華街の建物は東京や大阪と同じで北国らしさはないが、車や人の雑踏ぶりは比ではない。特に車で郊外へ出ると車は少く広々とした風景と共にやはり北海道だと思った。仕事でマンションの工事現場へ立寄った際、モデルルームでの販売価格が大阪の半値、東京の3分の1の値段であった。給料の差はほとんどないのにと妙なところに感慨しきり。札幌印象記でした。

★3月レポート

今月のカメラショー、当然ながら8ミリ関連はないにしてもたいして魅力なし。話題性少なし。キャノン高倍率ビデオカメラがやや注目といったところか。

さて、例会日の3月23日、前夜来の雨も上

がってしのぎよい例会日よりとなり集まりも上々、作品も7本が出て盛会となった。

上映;「越中五箇山の岩魚つり」滝野繁次郎氏、Si M 10分。S41年撮影というから27年目になるが色褪せていない。シングル8の出始めた頃だが、作品としても良くつくられている。「京のゆりかもめ」桐田豊繁氏、Su M 4分。昨年出品されたのに撮り足してナレも入れた再構成作品だがもうひと工夫ほしい。

「あしを刈る冬の川辺」村田英夫氏、Si M 4分。きれいな映像だけに注文も続出、ススキのアップは印象的だけに逆効果との意見も。

「平等院」金子博泰氏、Si M 4分。ロケハンで行ったが、撮りたくなって撮ってきたと作者。本番作品を期待したい。「冬」嵯峨点描」細見正氏、Si M 5分30秒。雪が降ったら知らせてほしいと茶店の人に頼んでいたら、電話があったのでかけつけたがたいして降らず、中途半端な雪の画面になってしまったと作者。画面はなかなかきれいだ。「青いポーチ」有村博氏、Su T 11分40秒。S58~59年と2年がかりであちこちの川で撮られた思い出の作品。人間の一生みたいなものが描けなかったと。「最後の竹林」合原一夫氏、Si M 11分30秒。S52年作、作者がOMCで始めて企画を担当し脚本を書いた記念すべき撮影会作品。但しこの作品はドラマ部分のみ撮影会のみを使い、あとはオリジナル作品。

★銀の会発表会 5月17日金曜、朝日生命H。

★下期会費納入月、よろしく願います。

☆4月例会は第4土曜27日、18時20分。於ならわ会館。気候も良し楽しくやりましょう。

★ビデオクラブ含め東京映像連盟が発足

—合原一夫氏の東京だより (21) —

東京では毎年東京小型映画連盟が8ミリフェスティバルを開催しているが、今年から「東京アマチュア映画連盟」を発足させ、その中に8ミリ部会とビデオ部会を置く、という組織替えが行われた。ビデオクラブが誕生しているのに対応し、幅広い活動を期待したいのと、都からの補助金を申請するのに8ミリだけでは時代に合わなくなった、という現実的対応もあるのだろう。8ミリフェスティバルの方は8ミリ部会の担当で今年も6月9日(日曜)午前10時より夜まで行われる。30幾つかのクラブ代表作品が上映されるが、東京映像クラブ代表として私の岸和田だんじり祭を撮った作品(旧作ではあるが川上勝晤会長のたつての推薦により)を出品、名誉なことである。

それにしても関西の小型映画連盟の方も将来を見通したあり方を模索し、何とか活性化できないものか、東京にいてつくづく思う。

★4月例会レポート

桜の季節も終り、すがすがしい初夏も真近かな実に近い季節となった。例会日は、急にご親戚に不幸があって小倉会長が次席されたが、20名を越す会員さんの集まりと9本の出品で時間一杯の大盛会となった。途中、企画の関氏より5月18、19日の一泊撮影会の説明と参加への呼び掛けがあった。撮影場所は和歌山県海南市、紀州漆器の「黒江ぬり」がメインテーマで年に一度の一泊撮影会は今から楽しみだ。多くの参加を期待したい。

上映作品; 「雑流し」桐田豊繁氏、Su M 5分20秒。関東あたりでは見られない伝統行事の記録として貴重だが大切な雑を流す心情が欲しい。「黒鯛つり」滝野繁次郎氏、Si M 10分。氏の釣り作品は溪流釣りが多いがこれは海釣りの自演自撮映画。楽しさが伝わってくるが編集にもう一工夫欲しい。「葛城乃里」金子博泰氏、Su M 4分。神社仏閣、地蔵、自然、動かぬものばかりでどうまとめるか難しい。「無縁経・花まつり」村田英夫氏、Si M 7分30秒。4月18日撮影というから、まだ10日もたっていない新作。中山寺の行事だが着かざった稚児さんの表情がいい。公開映写会へ出せるよと、という声しきり。「鯉織のころ」細見正氏、Si M 4分20秒。播但線寺前駅近くの田舎で、川の上に多数の鯉のぼりがはためく風景は圧巻。新聞を見て奥さんと車で行かれたとか。「おねり供養」江村一郎氏、Si M 9分。矢田寺での行事、昨日現像上がりしてきて、急ぎつきたという超最近作。氏にしてはオーソドックスにまとめられた。流し放しのBGMは気になる。

リバイバル作品コーナー: 「常念への道」辻村定利氏、Su T 14分25秒。登るだけでも大変なのによく撮ってこられた。「早春」今井羨美氏、Su T 10分。OMCびわ湖撮影会作品。鮎、扇骨、湖の情景等詩情豊かな作品。「きつね昔ばなし」合原一夫氏、Si M 9分25秒。伏見稻荷神社での“きもだめし”思い出話。
☆下期会費未納の方、宜しくお願ひします。
☆5月例会は第4土曜25日、18時20分。於なにわ会館、新作自作持参歓迎。を多数ご出席

1991 OMC 撮影会実施について

計画の発表が遅くなりましたが、1991年度のOMC撮影会を、関世話役の演出で下記の要領により実施致しますのでご案内致します。 H3.5.18

記

日 時 5月18日(土) 19日(日)の両日、1泊2日で行います。
集 合 時 間 18日正午 JR海南駅前(現地集合)
目 的 地 和歌山県 海南市 黒江地区
テ ー マ 江戸時代の面影を残す町並みと伝統を継承する漆器職人
参 加 費 15,000円 但し、現地までの交通費(往復)と両日の昼食費は各自負担。

宿泊はビジネスホテル プリンス・イン。夕食はホテル外で宴会を予定。

申 込 み 27日の月例会場で申込み受けをします。又は事務局(会長宅)へ電話で4月末日までに申込みをしてください。

漆器は英語でJAPANというそうです。この日本を代表する製品も、俗に三大漆器といわれる 輪島塗・山中塗・会津塗が世界的に有名ですが、和歌山県の黒江塗を知る人は少ないと思います。それだけに、きらびやかに観光化された施設ではなく、ひっそりと静まりかえった古い民家の片隅でこつこつと伝統の漆器造りに励んでいる職人の姿は8ミリ映画の被写体として最高です。また、周囲の町並みも幅2メートル程の狭い路地をはさんで、江戸末期に建てられたという丸瓦と連子格子の低い2階屋が“団塊”として残っており、しかもその家並がなぜかノコギリ状になっているのも、ここ独特の風情です。

今回の撮影会はこの漆器職人を中心に、黒江の町並みを皆さんそれぞれのセンスで撮影していただきます。日程としては18日は黒江地区の町並みその他を撮影。19日は3カ所ほどの職人さんの家に上がらせていただき、仕事に打ち込む姿を重点的に撮る予定です。モデルとなる職人さんは、すべて全国的に名の知れた「名匠」といわれる方々に出演をお願いしました。

申し込まれた方には、事前にナレーション原稿をお渡しますので、それに沿って撮影するのも一つの方法です。専門家が吹き込んだテープも後日希望者に実費で頒布します。

今回は現地集合になりますので、なるべくJRを利用してください。車で来られる方に対して駐車場の確保はしておきますが、現地では車で移動をすることはありません。

*JRの時刻 天王寺発 10:30 - <特急くろしお9号> - 11:20 海南着

“ 10:13 - <快 速> - 11:28 ”

“ 10:34 - 快速 - 11:28 和歌山着(乗換)

和歌山発 11:45 - 普通 - 11:58 海南着

運 賃 天王寺←→海南 片道1260円です。(特急料金は別)

★来年より衣替え：東京8ミリフェス

—合原一夫氏の東京だより (22) —

今年は従来の形式を踏んで東京8ミリフェスティバルが6月9日(日曜)行われた。東京映像代表で私の「祭りに燃えるまち」が選ばれたのでフィルム持参で朝の9時集合。休日とはいえ出勤時間と変わらず。さすがに午前前の部は観客は少なかったが午後からの部は次第が増えてますますの盛況となった。

都から補助金が出ているが来年からはビデオの部も加え、一般都民にも呼びかけた「映像フェスティバル」とし、グランプリ作品を審査員に選んでもらうなど大幅な変更がなされる由。そうしなければ補助金が難しくなるらしい。そのため前号でご紹介した「東京アマチュア映像連盟」へと組織がえ(前号では映像が映画となっていたが誤り)された。

公開映写会といえば、私の“尾瀬”の作品上映も行われた山岳映画サロンの公開映写会では豊島公会堂に1千名を越す大観衆を集めその熱気に驚くやら感心するやら。“尾瀬”の評判が良かったので気を良くしている。

★黒江塗り撮影会無事終了

今年の海南市黒江撮影会は天気にも恵まれ楽しく過ごさせていただいた。休日にもかかわらず漆器づくりの作業工程を撮影できたことは関係者のご協力によるが、企画された関さんのご努力に感謝したい。また撮影を断念し照明係などを引受けられた小倉会長にも謝意を表したい。参加者は小倉、関、有村、金子、岡本、花岡、岩井、今井、辻村、桐田、合原の各氏。ご苦労様でした(合原記)

なお、撮影会作品は7月例会で公開審査、よろしく願います。

★5月例会レポート

すがすがしい5月の空、例会場へ出かけるのも気持ちいい季節だ。開会前のひととき、8ミリやビデオ談議に花が咲く。カメラ修理は大阪南堀江にある日研ビコーで引受けてくれるという経験話を細見さんが披露、話題の中心となる(この項次回レポートに紹介)。上映; 「磯釣り」滝野氏、Si M 14分。S45年撮影、楽しい鯛釣り等の記録。「冬景色」金子氏、Su M 6分。嵯峨野の冬、いいカットが続くだけに注文も続出。「宇治平等院」村田氏、Si M 9分。平等院を克明に描いた努力作。ロングのピント甘さが気になるがカメラZC1000の故障か。「馬頭人祭」江村氏、Si M 8分45秒。滋賀県多賀町多賀神社例祭。馬に子供を乗せて町をねり歩く変わった行事。まとめ方が記録か映像か、どっちつかずになっているとの声があったが来年撮り足してまとめ直したらいい作品になろう。「おいで祭」細見氏、Si M 7分20秒。嵐山松尾神社の例祭。静かな作品が多い細見映画の中にあって動きのある良い作品に仕上がっている。「中之島考想」合原氏、Si M 10分30秒。S51年作。中之島の古き良き建物が失われていくのを惜しむ作品。レンガの旧裁判所が壊されていく貴重な記録も。「村のお地藏さん」有村氏、Su T 17分40秒。S50年作、キャノンコン入賞の優秀作品。貴重な記録である。

☆6月例会は第4土曜22日、18時20分開会。
冷房完備のなにわ会館。楽しいひとときを。

★投売りLPレコード

—合原一夫氏の東京だより (23) —

先日、山手線高田馬場の駅前ビルコンコースで、LPレコードの投売りをやっていた。一枚 500円の赤札がついている。ひと昔前までは2500円以上したシロモノである。ずらり並んだ中からBGMに使えるような2枚を買ってきた。その後、有楽町西銀座デパート(高速道路下)では常設のLPレコード販売処分店があり、そこは何と100円から300円、高いもので1500円という値がつけられていて大量に売られていた。世はCD時代でレコードは早く処分してしまいたいとのレコード会社や問屋筋のなげきか聞こえてくる様である。

★8ミリ機材修理よろず引受け所ご紹介

5月例会で細見さんがZ800の修理をフジではやってくれないので、神戸の土井さんから聞いたという「日研ビコー」へ行ったら、直してくれたと大よろこび。映写機でもテレコでも何でも一応手がけてくれるらしい。これは耳よりの話と会員諸氏に紹介する次第。

場所：大阪市西区南堀江3-10-12、高岡ビル内・日研ビコー(株) ☎06-538-0506 担当・時津さん、という方。地下鉄四ツ橋駅西南方向歩5分。くわしくは細見さんへどうぞ。

★6月例会レポート

梅雨時で小雨降る例会日。会員の出足いまひとつ悪し。どういうわけか司会役の有村氏定刻を過ぎてても姿見せず。いつもなら事前に連絡があるのだがと小倉会長。自ら司会役で開会宣言。後で聞いたところによると有村氏コロット例会のこと忘れていて月曜になって

ようやく気がついたとか。いやー、私も社外の大事な会議を忘れて迷惑を書けた直後だっただけにひと事ならず。年を取ると物忘れがひどくなる…。お互いいつまでも若くありたいものである(合原記)

上映；「冬模様」金子氏、Su M 9分。寒い北陸の荒波をうまく撮ってあるが少し長すぎると声あり。荒波の露出は不安定になりがちでマニュアルで撮りたいもの。「おいで祭」村田氏、Si M 9分。嵐山松尾神社の例祭。ナレーションがあったら判りよかったが、画面としてはよく撮ってある。「西ノ京・薬師寺」細見氏、Si M 9分。仏像のアップ等苦勞して撮ってあり感心するも、プロのナレーターがかえって損した?。「雪の奥穂高」花岡氏、Su T 18分。立派な作品で早くも秋の公開映写会用に本決り?。苦勞して撮ってこられた様子がしのばれ、氏の作品中一番良くてきたものと大方の声あり。「明日の海」岡本氏、Su T 4分。1983年大阪湾に集結した世界の帆船を小型船の上から撮影。波で揺れて画面が不安定なのが惜しい。「祭に燃えるまち」合原氏、Si M 12分。岸和田祭りを撮ったもので東京フェスティバル出品後の凱旋上映。

★公開映写会出品予定をお知らせ下さい

9月初旬にはプログラム作成にかかりますので作品の目途をたてるため、出品予定者は7月例会で報告書を提出してください。始めての方歓迎、遠慮なく申し出を。(小倉)

★7月例会は第4土曜27日、18時20分開会。
なにわ会館にて。今月は黒江塗撮影会作品公開審査です。一般作品のご持参もどうぞ。

★古い土蔵造りの家並・須坂（長野）紀行

—合原一夫氏の東京だより（24）—

去る7月中旬、土質学会のため長野へ出張する機会に恵まれた。私は長野はもとより信州そのものが初めて訪れる地であった。学会の帰り土休を利用して戸隠高原へ行く予定であったが、あいにくの曇り空。そこで旅行ガイドを頼りに長野電鉄に乗り須坂のまちを訪れてみた。そこは明治から昭和の初期にかけての古い風格ある土蔵造りの家があちこちに見られ、8ミリの被写体として写欲をそそられた。ぼたもち積という基礎石の積み方も珍しかった。翌21日の日曜日は祇園祭りで竿ぼこと神輿が出るという。予定を変更して翌日（快晴で高原へ行きたかったが！）もまた須坂へ行き祭り風景を存分に撮ってきて大満足であった。

さて現像が上って試写をやってみると、何と大半が露出オーバーでびっくり。考えてみれば518SVの絞り方がきついと思ひ半絞り開けたのがまずかったのだ。もう少し機械を信用すればよかったと思ったが後の祭り。逃した魚は大きいというが、信州須坂は如何にも遠い。誰も荒らしてない？題材だったのにと泣くに泣けない。しかし少々露出オーバーでも何とか日の目を見せてやろうと、目下思案中の今日この頃である。

★黒江撮影会作品コンテは合原作品が1位

7月例会は27日なにわ会館で定刻遅れの6時40分より開始。外は梅雨明け後のうだる様な暑さだったが会場は冷房がほど良く効いて別天地のよう。撮影会作品公開審査日なので

企画の関氏が見える筈のところついに姿を見せず、止むを得ず抽選で上映順を決め出品5本の競映に入った。いずれ劣らぬ立派な出来で努力の跡がありあり。1人2票の特点で全員投票の結果、合原氏12票で1位、今井、花岡の両氏が6票づつで2位となりそれぞれ優秀賞、秀作賞に輝いた。

「漆器に息づく町」合原氏、Su T 13分22秒

「漆器の町・黒江」今井氏、Su T 11分

「黒江塗」花岡氏、Su T 13分10秒以上入賞

「紀州漆器の里黒江」金子氏 Su M 12分20秒

「漆工芸の町黒江」桐田氏、Si M 13分15秒

一般作品上映

「斑鳩三塔」村田氏、Si M 6分。丁寧に撮られているが“塔”にもう少し重点を置いたらどうかと意見あり。「能勢の夏」細見氏、Si M 6分。いいカットがそろっている。夕立があれば申し分なかったが。画面の順序をグルーピングしたらもっとよかったと助言があった。「雨の日」江村氏、Si M 5分。ねらいは良いが不要なカットがあるのが惜しい。雨にもめげず撮られた熱意に敬意。話題が尽きない作品であった。「ロマン探訪・太平記」有村氏、Su T 18分。公開映写会用につくったと作者。奥さんと二人で太平記ゆかりの地をまわられた。さすがに器用にまとめられている。以上で恒例の2次会場へ繰り出した。

★公開映写会作品申込み受付中

10月25日（金）フェスティバルへ向けプログラム印刷の関係で早めに申込書の提出を。

★8月例会は第4土曜24日、18時20分開会。

冷房完備のなにわ会館。多数御来場どうぞ。

★“8ミリ界の大御所”師岡宏次氏死去

— 合原一夫氏の東京だより (25) —

師岡 (もろおか) さん、と言っても関西の人には馴染みはないと思われるが、東京フェスティバルの産みの親であり、都の文化事業の一端として補助金をもらうまでに努力された方、と言えば少しは判ってもらえようか。

それより私の所属する東京映像が東京エイトとして産声を上げたのも氏の主催する8ミリ勉強会からがきっかけであった。氏は風土記、記録ものを得意として数々の名作を出しておられる。その氏が病にたおれ、この8月11日亡くなられた。8ミリ界で活躍された人達が、ポツリポツリと亡くなられていくことは淋しいものである。後に続く人は皆ビデオになっていて、8ミリ人口の自然減は止めようがない。しかし最後の一团となるまで8ミリは止めないゾと決意を披露する人もまだ多い。OMCはこうした人に支えられ、その最後のグループになるまで頑張るか。

★8月例会レポート

“残暑見舞いさえ間に合わず虫の声”今夏の天候はほんまに気まぐれ。涼しかったり暑かったり、それでも短かい夏なのか夕方には虫の声が聞こえるようになった。

8月例会は24日行われたが、小倉会長が海外旅行のため休まれたが、3カ月ぶりに上総氏が顔を見せられるなど16名の出席者を得てまずまずの盛会となった。

上映作品「大阪城と梅林」桐田氏、Su M 5分。1982年作。こういう作品は城か梅か、どっちかに重点を置いた方がよいと助言あり。

「夏はきぬ」村田氏、Si M 5分。日本庭園にてハスの花や鯉などを綺麗に撮っておられるが内容と題名がぴったりしないのではないかと疑問が出された。「秋祭り」細見氏、Si M 6分。池田市八坂神社の祭り、丁寧にまとめられているがナレがないので判りにくい点があった。「ある探訪」辻村氏、Su T 10分。ヨーロッパ旅行記。“探訪と紀行と記録”との違いを考えさせる話題作。「花まつり」村田氏、Si M 7分。公開映写会候補作品の再上映。ロングのピン甘が気になるがカメラグセで直らないとは残念。「大原の里」合原氏、Su T 10分。昨年2月撮影会作品をようやくまとめて持参と作者。「伝統を守る人々・志摩」増田氏、Su T 17分。数年前の公開映写会作品だが氏の努力作。祭をオムニバス風にまとめ、ナレ入りで判り易く作ってある。

★公開映写会上映作品決まる

このほど小倉、合原、有村の三世話役が集まりOMCフェスティバルのプログラムを構成した。その結果ほゞ次の様に決定した。

- ①「無縁経・花まつり」村田英夫氏
- ②「村祭り」細見正氏
- ③「湖東早春」岡本至弘氏
- ④「漆器の町・黒江」今井羨美氏
- ⑤「雪の奥穂高」花岡汪氏
- ⑥「晶子讃歌」上総修一郎氏
- ⑦「ロマン探訪・太平記」有村博氏
- ⑧「この20年の間に」合原一夫氏
- ⑨「神々の園」小倉宝蔵氏。若干の変更あるかも。

☆9月例会は第4土曜28日、18時20分開会。

於なにわ会館。楽しいひと時を過ぎましょ

☆10月例会は休会。OMCフェスティバルの

翌目になりますので休会にします。よろしく

★私の“ナレーション考”

— 合原一夫氏の東京だより (26) —

ナレーションを自分で入れてみたいが、どうも自信がなくて、とおっしゃる方が多い。

誰でもプロのアナウンサーの様に、自信のある人はいないと思う。ただ、アマチュアの商品だからアマチュアがナレーションを読んだって当然だし、自分の作品なら下手でも自分で吹き込んだっていいじゃないか、と聞き直ってみることだ。

私も上手い方じゃない。発音にくせがあるのか人呼んで“合原節”だと言う。よっぽどおかしな読み方だろうかと、“合原節”といわれるたびに嫌な気持ちになって滅入ってしまう。しかし、素人なんだから仕方がない、とそれこそ聞き直って、それでも少しでもマシになりたいと思って今日も一本吹き込んだ。

私のナレーションの読み方は、作品の内容にもよるが、子どもに話して聞かせる様な、ゆっくりした気持でマイクに向う。語りかけるといふ気持でのぞめば、文章を棒読みせず、間のとり方も自然にとれてくるものである。それと気持の落ちつきが大事で深呼吸ひとつと、ひと口の水は効果がある。ナレーションも2回繰り返すと、やっぱり後の方がよい出来になっているので、1回で満足しないことである。自信のない方も、一度やってみて下さい。

★世話役会で来年もフェス開催を決める

前日9月27日は、台風19号で九州の家内の実家では50m以上の強風で2階の瓦屋根が母家ごと吹き飛ばされたという。私が設計した

家だったが、母家の1本1本をかすかいで固定すべきであったと悔やまれる。それにしても今年は台風と雨の当たり年である。

例会前のひととき、世話役会を催し、10月25日(金)のフェスティバルの際の役割分担等につき話し合われた。来期も資金面の課題は残されているものの、とにかく朝日生命ホールでフェスティバルをやる、という方向が打ち出された。それにつけても、作品が集まるかが不安視される現状である。皆、8ミリの火を消さないためにも、これからも頑張って作っていこう!

★9月例会レポート

今月はどういうわけか作品の集まりが悪く今期最低の4本であった。合原会員など新作があったのを忘れたという始末。しかし、ときならぬ8ミリ討論になって面白かった。8ミリこだわり派を自認するOMCなら、皆少なくとも1本は作って出品してほしい、というのが結論。皆さん頑張って作りましょう。上映作品;「漆器の町・黒江」今井氏、Su T 13分。フェス用に若干追加手直しされた。

「百石踊」村田氏、Si M 7分。三田市の村祭り。子どもの表情がいい。良くできた作品。

「夏日」江村氏、Si M 5分30秒。季節感について意見続出、いい勉強会になった。

「八尾おわら風の盆」細見氏、Si M 13分。富山県八尾の祭りを撮影のためJRお座敷列車で訪問。情感があり話題が尽きなかった。

☆フェスティバル成功のため動員方よろしく

☆10月例会はフェスティバルの翌日に当りますので休会です。お間違えないよう願います

OMC News

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

〒531 大阪市北区長柄東2-1.21-204

TEL (06)357-7281

1991.11 No.312

★まずは盛会だったフェスティバル

今年は雨が多かったのでOMC 8ミリフェスティバルの当日、雨でも降ったらお客さんが少なくなるなあと、心配していたが、日頃の行いが良い?のか天気にも恵まれ、観客の出足も上々、盛会となってひと安心した。

小倉会長はじめ会員諸氏のご努力とご協力の賜と深く感謝します。なお、来年も朝日生命ホールにて本年同様開催しますので作品制作の方も今からお願いしておきます(合原)

★例会記録あれこれ

この連休を利用して例会記録2年分をまとめてみた。

	1990年度	1991年度	
例会回数	12回	12回	
月平均出席者数	17.0人	16.8人	
月平均出品数	8.2本	7.0本	
年間出品総数	98本	84本	
個人記録	村田英夫氏	12回出席 12本出品	12回出席 13本出品
	桐田豊繁氏	12回出席 13本出品	12回出席 9本出品
	細見 正氏	11回出席 11本出品	10回出席 10本出品
	金子博泰氏	9本出品	8本出品
	江村一郎氏	9本出品	7本出品

村田、細見両氏は'89年9月例会より入会され、'91年度当初の翌10月より作品を持参されるようになり、以後毎回ご出品されていることに脱帽であり、敬服の至りである。

只今OMC始って以来の連続出席出品記録更新中であり、ギネスブックOMC版にいずれ記録されようが?、次に挑戦者が出現するのは至難と思われる。どうかいつまでもお元気で作品作りに励んで下さい。拍手!

このほか'91年度に限った出席回数が10回以上の方を列举すれば、有村、今井、小倉、金子、合原、辻村、花岡、増田、森の各氏。出品数が4本以上の方は、有村、今井、合原滝野、辻村の各氏。1~3本は岡本、上総、関、中西、花岡、増田、横山の各氏でした。

これらのデーターを'88年度(S'63年度)の記録と比較すると'63年度が16.8人/月の出席者であり5.5本/月の出品数であったことから、むしろこの2年間は例会も盛会となったと言わなければならない。これは元エルモクラブやシングル8友の会大阪支部からOMCへ新しく入会された、しかも8ミリ制作に熱心な方々が入ってこられたということに起因しているものと思われる。

問題は、この2年間を通じて僅かながらも出席者数、出品数が減ってきたことに、将来を見通したとき、危惧の念を感ずるのだが、思い過ごしであってほしいものである。

毎回ご熱心に例会へ顔だしされ、出品されていた滝野さんあたりもこの4カ月欠席されているが、ご病気でなければよいかと念ずる一方、もしもお元気ならばどうぞOMCをお見捨てにならないで一緒に楽しくやっていてほしいと願うものである。(合原)

☆11月例会は23日第4土曜日。新年度の始まり。多数ご出席願います。会費もよろしく。

★今年も早や年末…

一年が過ぎるのが早い、と感ずるようになったら、それは年を取ったせいと言われるが、月日の立つのは早いものである。一日一日を大切に、充実した生活を過ごしたいものである。仕事の合間に8ミリなりビデオなりをいじることは、何よりの充実感を味わうひと時でもある。来年も楽しくやっっていこう!

★新年度の企画担当は関氏ら4名の留任

11月例会の直前に行われた世話役会で新年度の担当が選ばれ、月例会で承認された。

相談役/横山、堀池、上総。会長兼総務/小倉。会計/増田。広報・記録/合原、花岡企画/関、岡本、今井、花岡。月例会/司會有村、合原。映写;前田、岡本、今井。

新たにフェスティバル担当が設けられた。小倉、合原、有村、前田。以上の各氏。ご苦勞様ですが、宜しく願います。

その他会計報告が行われ、これも同様に承認された。繰越金が昨年より3万円少なくなり、フェスティバルに赤字が出るが、カンパを募るなどで穴埋めし、前回決定通り実施が確認された。作品制作の方をよろしく。

★年度賞決まる。会長賞に「雪の奥穂高」

月例会で会長より年度賞の発表があり、トロフィーが渡された。年度賞(グランプリ会員を除く)会長賞/雪の奥穂高:花岡汪氏。OMC賞/湖東早春:岡本至弘氏。村祭り:細見正氏。努力賞/無縁経・花まつり:村田英夫氏。おめでとうございます。来年も頑張ってください。

★月例会レポート

前号で例会に姿を見せられなくなった滝野さんのことを書いたが、早速11月例会に作品持参でご出席。やはり仲間はOMCを見限ってはいなかった。感謝感激。と、今度は私が所用で欠席。申し訳ない。(合原)

上映作品;「清滝と高尾のもみじ」桐田氏 Su M 4分30秒。昨年の作品に撮り足して再編集、俳句でナレを入れられた。絵のテンポ、紅葉の撮り方等に助言あり。再挑戦されては如何?「花博・ポートピア81・日本万国博」滝野氏、Si M 13分。オムニバス形式で花博からポートピア、万博へと回想する。万博会場のまだ小さなお子たち、よい記念のホームムービー、楽しい映画である。博覧会から博覧会への繋ぎにひと工夫ほしい。「山里にみのりの秋が」村田氏、Si M 5分30秒。能勢の山あいの田園風景、機械の稲刈りは味気ないが、田んぼに広がる藁を焼く煙が印象的で、綺麗な映像である。ラストシーンについて意見が出された。「ふとん太鼓」金子氏、Su M 12分。出だしは迫力十分。だが長々と続くふとん太鼓の同じ様な画面の連続は一考を要する。百舌八幡の祭りで地元の上総氏から撮影場所や狙いについて助言があった。「謎」辻村氏、Su M 4分20秒。まさに“ナゾ”の作品。いろいろと話題を提供した作品でした。

今月の例会レポートは合原担当が所用で欠席の為、花岡、小倉両氏の手で纏められた。

☆新年会:1月18日(土)18時、なにわ会館 会費 8,000円。多数のご参加お待ちしております。

☆12月例会は第3土曜21日。年末のため1週間早くなります。皆で楽しく例会を納めよう